

内科学〈血液腫瘍内科分野〉

担当指導医師

●本院

教授：伊藤 薫樹

准教授：小宅 達郎

講師：古和田 周吾

助教：岡野 良昭、西谷 真来、前田 峻大、佐藤 剛

非常勤講師：張替 秀郎、照井 康仁、村井 一範、木村 晋也

学修方針（実習概要等）：

アドバンスト臨床実習の目的は、4・5学年の臨床実習で修得した診察法および血液内科学を含めた一般医学知識に基づいて、血液疾患患者の病態および問題点を的確に把握し、病態に即した治療方針を示すことができるようになることにある。よって担当指導教官のもとで以下の実習を行う。

教育成果（アウトカム）：

血液疾患の症状・病態を理解することで、血液疾患の病型診断およびそれぞれの疾患の病態に応じた治療方針の立案を行う能力を身につける。患者診察を通じて血液疾患特有合併症の評価や鑑別を行う技術を習得する。また、患者およびさまざまな職種の医療従事者とのコミュニケーションを通じ、生活指導に向けた基本的な診療能力（態度・技術・知識）とチーム医療への参加のあり方を修得する。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4）

到達目標（SBOs）：

- *1. 患者さんと医療面接・診察を行い、病歴・身体所見を電子カルテに記載できる。
- *2. 面接と診察から得られた情報に基づいて、患者の状態を説明し、検査計画をたてることができる。
- *3. 血液・生化学検査を説明できる。
- *4. 骨髄・画像所見を説明できる。
- *5. 上記の情報に基づき、患者の病態を説明できる。
- 6. EBMに基づいた治療方針をたてることができる。
- 7. 末梢血および骨髄塗抹標本を観察し、血球形態を理解し、診断できる。
- 8. 造血器悪性疾患による抗腫瘍化学療法施行中の患者さんについて、適切な補助療法を計画することができる。
- 9. 幹細胞移植の適応・方法を説明できる。

実習内容：

1. 実習内容

- (1) 患者の病歴聴取
- (2) 理学的所見を説明する。
- (3) 検査所見を説明する。
- (4) 診断計画をたてる。

- (5) 骨髄検査所見を説明する。
- (6) 診断根拠を説明する。
- (7) 問題点を抽出し病態との関わりを説明する。
- (8) 問題点に対する方針をたてる。
- (9) EBMに基づいた治療方針を立案し説明する。
- (10) 白血球減少患者の感染症に対する予防および治療の基本を説明する。
- (11) 個々の患者の長期的な方針を立案し説明する。
- (12) 患者・家族との面談に参加し、面接方法を知る。

2. 医局行事

- (1) 総回診（火：14:00～）に参加し、担当患者についてプレゼンテーションを行う。
但し、関連病院についてはその施設の方針に従う。
- (2) グループ回診（毎日：朝 8:30～、夕 15:30～）
- (3) 抄読会・症例検討（火：14:00～）
- (4) 標本検討会（火：17:00～）

3. 基本的手技の実際

下記の医療行為の意義を理解し、一部の手技については担当教官の指導・管理のもとに実際に行う。

- (1) 全身の診察
- (2) 静脈血採血
- (3) 動脈血採取、血液ガス測定
- (4) 骨髄穿刺

注意：

Webclass に実践内容のポートフォリオを入力すること。内容を教員が評価し、随時フィードバックする。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診断用機械	心・腹部超音波検査装置	1	患者の評価に使用する。
診断用機械	骨髄穿刺針	5	骨髄検査に使用する。
診断用機械	生体情報モニター（DS-7100）	1	臨床実習における患者の病態検討
実習用機械	骨髄塗抹標本	20	標本実習に使用する。
視聴覚用機械	マルチディスカッション顕微鏡	1	血液標本を同時に観察する。
視聴覚用機械	デジタルカメラシステム （PixeraPro150ssPro150ss）	1	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	デスクトップパソコン ProDesk600	1	臨床実習で使用のため
視聴覚用機械	デスクトップパソコン iMac 27 インチ一式（iMac Retina5K）	1	講義・実習用テキスト作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン iMac Retina5K ディスプレイモデル一式（iMac Retina）	1	講義・実習用テキスト作成
その他	複合機（e-STUDIO4525AC）	1	臨床実習における資料作成